



Newsletter

日本食物繊維研究会

No. 14
2002

No.14 Oct 2002

| | |
|-----------------------|---|
| 絶え間ないブレイクスルーを！ | 1 |
| 日本食物繊維研究会第7回学術集会プログラム | 2 |
| 編集委員会より | 8 |

絶え間ないブレイクスルーを！

大妻女子大学 桐山 修八

まもなく消え去ろうとしている人間に、このような目立った所で何か書けということは一体何を期待してのことであろうか。消えゆくといっても、本会の創立に参加したのものとして、この分野の研究をもっと発展させていきたいという気持は皆様と同じように十分持っているつもりだし、やりたいテーマはまだまだ沢山残っている。出来ることなら消えたくないというのが正直な所かもしれない。しかし、どんな分野であれ、研究の発展のためには常に若者達が積極的に参加していること、活躍していることが必須である。

先日、新しい会員名簿が送られてきた。パラパラ見ているうちに、本会の平均年齢が気になりました。幸い、各人の卒業年次や大学院修了年次が付いていた。平成の人はどんな割合を占めているのか数えてみた。約30名であった。会員総数が200名とすると15%である。他の学会と比べて、これはどの程度なのであろうか。この30名の方々はすでにほとんど社会人のようであった。学生会員の数は正確にはつかめなかったが、名簿による限り、ほんの数名にすぎないのでないか。因みに、昨年改訂された日本栄養・食糧学会の会員名簿に基づいて、[学生会員欄の頁数×100/正会員+学生会員欄の頁数]から概算したところ、約14%に達していた。こうして、わが研究会は高齢化が異常に進んでいることが明らかになった。もちろん、平均年齢だけで研究会の将来を占うことはできないかもしれないが、もっと多くの若者の参加が得られような方策を立てなければ、本会の発展は望めないのではないかと危惧される。では、どんな対策があるのか。難しいが、これは全会員のテーマであろう。変わりばえしないが、当面はしつこく研究会を維持し続けることしかないが、どのような魅力を備えていくかである。この分野は魅力あふれるテーマの宝庫である。それが感じとれないという感受性の問題なのか、我々がアピールし切れずにいるためなのか、どちらなのであろうか。

最近、“非栄養素の栄養学”というフレーズが流行りだしているように見える。ポリフェノールだったり、カプサイシンだったり、イソフラボンだったりするのだが、もともとこのフレーズは、30数年前、コンニャクマンナン、カルボキシセルロース(Na塩)、アルギン酸(Na塩)などのラット血漿コレステロール正常化作用の発見(1968、辻ら、桐山ら)に基づいて、1970年桐山が提唱したものである(化学と生物、コレステロール代謝と食品多糖類—非栄養素の栄養学—、8巻、8号、468-469頁)。その後、食物センイ仮説が国外から入ってくると、我国でも多くの研究者が参入し、栄養・食糧学会でも食物センイ分科を設けるようになり、今日の状況になったという経緯があった。すなわち、ある学問分野の浮沈は、常に勃興期の雰囲気を保っているかどうかにかかっているのではないかと思われる。したがって、今、これを再来させ得れば発展は間違いのないと思われる。絶え間ないブレイクスルーが切望されるのである。

第7回学術集会プログラム

会場 独立行政法人 国立健康・栄養研究所（東京都新宿区）

会長 池上 幸江（大妻女子大学家政学部教授）

1. 行事日程

11月1日（金）

- 8:30～ 9:00 幹事会（第2会議室）
- 9:00～11:40 一般講演発表（第1会議室）
- 11:40～12:10 評議員会（第1会議室）
- 12:10～12:30 総会（第1会議室）
- 12:30～13:30 昼食
- 13:30～17:30 シンポジウムⅠ（第1会議室）
「多糖類の物性と構造」
- 18:00～20:00 懇親会（国立健康・栄養研究所 食堂）

11月2日（土）

- 9:20～12:00 シンポジウムⅡ（第1会議室）
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～16:00 一般講演発表（第1会議室）

2. 参加者への御案内

1) 総会および学術集会の受付

総会および学術集会の受付は、国立健康・栄養研究所正面玄関を入った1階ロビーにて行います。参加費（講演要旨集込み）は正会員3,000円、学生会員1,500円、非会員は4,000円です。

2) 呼び出し、クロークなど

会場での呼び出しは特別な場合を除いて行いません。また、クロークも設置しませんので、荷物は各自で保管して下さい。

3) 昼食

11月1日（金）は1階食堂、喫茶室が利用できますが、2日（土）は休日ですので利用できません。近隣では、早稲田側か、大久保通りに出ていただきますと飲食店がございます。

4) 懇親会

1日（金）シンポジウム終了後、1階食堂で開催します。会費は3,000円です。当日受付で申し込んで下さい。

5) 連絡先

日本食物繊維研究会第7回学術集会事務局

〒102-8357 東京都千代田区三番町12

大妻女子大学家政学部食物学科

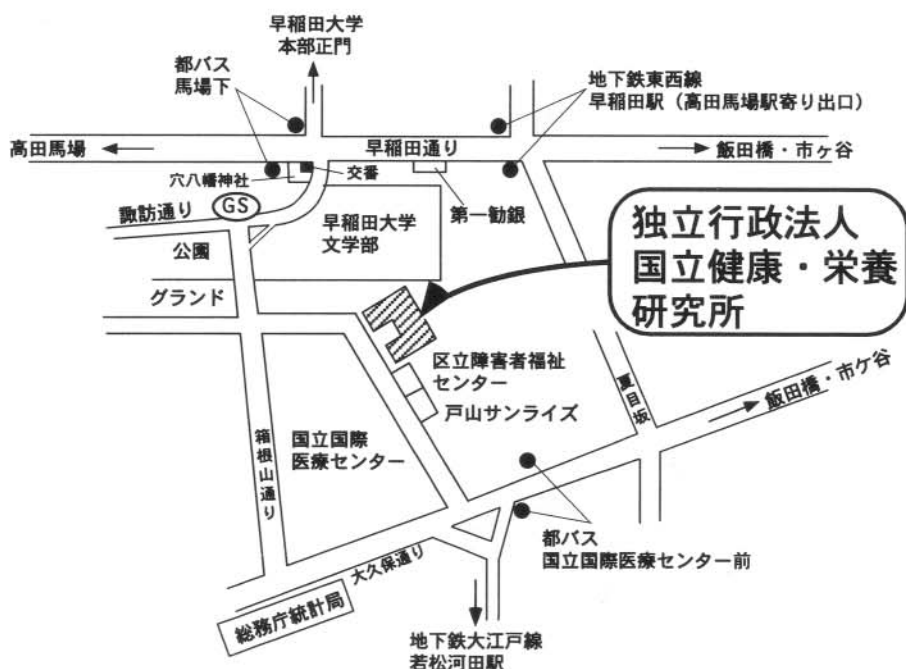
TEL & FAX: 03-5275-6046

E-mail: sikegami@otsuma.ac.jp

6) 学術集会への交通案内

独立行政法人国立健康栄養研究所への交通手段は以下の通りです。

営団地下鉄東西線・早稲田駅下車 徒歩約8分



日本食物繊維研究会ホームページ開設のお知らせ

日本食物繊維研究会のホームページが解説されました。

<http://jdf.umin.ne.jp>

をご覧ください。

まだコンテンツが全て整っていませんが、トップページにはInformationとして公開講演会の案内や会誌の最新号のお知らせが掲載されています。目次からは、学術集会の案内、入会案内、研究会誌のバックナンバーのabstract等が現在のところ整備されました。まだアクセス件数が200件程度ですので是非一度ご覧いただき、ご意見をいただければと思います。

3. 一般講演プログラム

11月1日 (金)

| 時刻 | 演題番号 | 演 題 |
|------------------------|------|--|
| 座長 : 森 豊 (国立療養所東宇都宮病院) | | |
| 9:00 | 1 | 大麦が水浸ストレス潰瘍ラットの胃粘膜粘液糖タンパク質に及ぼす影響 ○吉澤みな子 ¹ , 中野長久 ² , 中村尚夫 ¹ (甲子園大・栄養 ¹ , 大阪府大・応生化 ²) |
| 9:20 | 2 | 発酵大麦ファイバーがラットの消化管機能と脂質代謝に対する影響 梅木美樹 ¹ , ○望月聡 ² , 林圭 ³ , 大森俊郎 ⁴ (大分大・工 ¹ , 大分大・教育福祉 ² , 三和酒類(株) ³ , (株)大麦発酵研究所 ⁴) |
| 9:40 | 3 | 長期間ポリデキストロースを摂取した常習性便秘症の臨床的検討 ○松生恒夫 ¹ , 鈴木康元 ¹ , 野沢博 ¹ , 西野春夫 ¹ , 森豊 ² (松島病院大腸肛門センター ¹ , 国立療養所東宇都宮病院・内科 ²) |
| 座長 : 坂田隆 (石巻専修大学) | | |
| 10:00 | 4 | 微粒子セルロース懸濁液のレオロジー的研究 ○平岩雄介, 西成勝好 (大阪市大・生活科学) |
| 10:20 | 5 | 微粒子セルロース・コーンスターチ混合系の物性 ○廣江美佳, 木下千織, 林都, 平島円, 西成勝好 (大阪市大・生活科学) |
| 10:40 | 6 | ジェランゲル中のヘリックス-コイル転移 ○西成勝好, 新田陽子, 池田新矢, 高谷友久 (大阪市大院・生活科学) |
| 座長 : 岸田太郎 (愛媛大学) | | |
| 11:00 | 7 | 木材セルロースから細菌性セルロース様物質製造の試み: ラット血漿コレステロール低下作用発現をめざして ○山岸あづみ, 桐山修八 (大妻女子大学・家政) |
| 11:20 | 8 | フラクトオリゴ糖摂取によるラットの盲腸内発酵に及ぼす細菌セルロースの影響 ○福永竜子 ¹ , 戸田登志也 ² , 笠岡誠一 ³ , 桐山修八 ¹ (大妻女子大・家政 ¹ , フジッコ(株) ² , 文教女子大・健康栄養 ³) |

11月2日 (土)

| 時刻 | 演題番号 | 演 題 |
|-------------------------|------|--|
| 座長：真田宏夫 (千葉大学) | | |
| 13:00 | 9 | 小腸粘膜の消化酵素活性と形態に対する食品中の食物繊維の影響 ○山本恭子 ¹ , 金親未樹 ¹ , 小笠原雅美 ¹ , 池上幸江 ¹ , 今井智恵子 ² , 山田和彦 ² (大妻女子大・家政 ¹ , 国立健康・栄養研 ²) |
| 13:20 | 10 | セロビオースと乳酸菌KY-3の同時摂取がラットの消化管機能ならび に脂質代謝に及ぼす影響 ○梅木美樹 ¹ , 大上和敏 ¹ , 酒井謙二 ¹ , 望月聡 ² (大分大・工 ¹ , 大分大・教育福祉 ²) |
| 13:40 | 11 | ラッキョウ端切り粉末の有効利用に関する基礎的研究：食物繊維源とし ての有効性の検討 ○谷政八 ¹ , 小林恭一 ² , 小西雅子 ³ , 池田涼子 ¹ , 谷洋子 ¹ , 三谷勝巳 ¹ (仁愛短大・生活科学 ¹ , 福井県食加研 ² , 三里浜特産農協 ³) |
| 座長：田所忠弘 (東京農業大学) | | |
| 14:00 | 12 | ハイアミロースデンプン摂取時の大腸内発酵キトサンによる制御とデ ンプンの利用性 ○早川亨志, 水田勝人, 田中真理子, 柘植治人 (岐阜大・農・食品科学) |
| 14:20 | 13 | ビートファイバーによる糞中および消化管胆汁酸量の変動 ○岸田太郎, 長本学, 大賀浩史, 海老原清 (愛媛大・農・栄養科学) |
| 14:40 | 14 | OLETFラットの糖代謝, 脂質代謝に及ぼすヤマブシタケ長期摂取の効果 ○森豊 ¹ , 大嶋俊二 ² (国療東宇都宮病院・内科 ¹ , カゴメ (株)・総合研 ²) |
| 座長：早川 亨志 (岐阜大学) | | |
| 15:00 | 15 | 酵素処理米糠ヘミセルロース (MGN-3) がラットの実験的肝障害に 及ぼす影響 ○山田太斗 ¹ , 台蔵彩子 ¹ , ボインドグルン金花 ¹ , 江頭祐嘉合 ² , 前田浩明 ³ , 真田宏夫 ² (千葉大・院・自然科学研 ¹ , 千葉大・生物生産科学研 ² , 大和薬品 (株) ³) |
| 15:20 | 16 | ヒトにおける呼気水素ガス排出量による各種食物繊維素材の発酵性の検討 ○中村禎子, 奥恒行 (県立長崎シーボルト大・栄養健康) |

11月2日 (土)

| 時刻 | 演題番号 | 演 題 |
|------------------|------|---|
| 座長：倉沢新一 (関東学院大学) | | |
| 15:40 | 17 | 文献等資料に基づく各種食物繊維素材の有効エネルギーの推算値 ○奥恒行 ¹ , 山田和彦 ² , 金谷建一郎 ³ (県立長崎シーボルト大 ¹ , 国立健康・栄養研 ² , (財)日本食品分析センター ³) |
| 16:00 | 18 | 定量法・検討班活動報告 ー酵素処理を簡便化したプロスキー改良法のクロスチェックー 検討班：○金谷建一郎, 印南敏, 森文平, 高橋リエ, 池上幸江, 倉沢新一, 奥崎政美 協力機関：山本美樹 (大妻女子大), 根岸由紀子 (女子栄養大栄養科学研究所), 多田周作, 高橋聡子 (大和化成), 森曜子, 赤木佳代 (日本凍食品検査協会), 神部武重, 吉井信彦 (日本食品分析センター) |

4. シンポジウム

11月1日 (金) シンポジウム I 「多糖類の物性と構造」

| 時刻 | 演題番号 | 演 題 |
|--------------------------------|------|--|
| 座長：西成勝好 (大阪市大学), 桐山修八 (大妻女子大学) | | |
| 13:30 | 1 | ルミナコイド研究の回顧と展望 ー新機能性素材の創造へー 桐山修八 (大妻女子大学) |
| 14:00 | 2 | セルロースの機能性 畠山立子 (大妻女子大学) |
| 14:40 | 3 | 多糖類の粘性と構造の関連 小川悦代 (昭和学院短期大学) |
| 15:20-15:30 | | 休憩 |
| 15:30 | 4 | 多糖類のレオロジー 高橋正人 (信州大学) |
| 16:10 | 5 | 多糖類コンプレックス形成, あるいは化学構造改変の技術 中村邦雄 (大妻女子大学) |
| 16:50 | 6 | 多糖類のゾルーゲル転移ー構造から見て 梶原莞爾 (大妻女子大学) |

11月2日(土) シンポジウム II 「難消化性成分と消化管機能」

| 時刻 | 演題番号 | 演 題 |
|----------------------|------|---|
| 座長：奥 恒行（県立長崎シーボルト大学） | | |
| 9:20 | 1 | 「咀嚼と食物繊維」－生活習慣病・ほけ予防をめざして－ 齋藤滋（日本咀嚼学会） |
| 10:00 | 2 | 難消化多糖類の物性と小腸消化吸收機能の関連 海老原清（愛媛大学） |
| 10:40 | 3 | 難消化性糖類とカルシウム吸収機構 合田敏尚（静岡県立大学） |
| 11:20 | 4 | 食物繊維と大腸機能 坂田隆（石巻専修大学） |

5. 講演者，討論者，座長へのお願い

1) 講演

講演時間：一般講演（発表15分，討論5分），シンポジウム（講演35分，討論5分）

発表はスライドプロジェクター，Power Point 2000(Windows,Macintosh)，OHPを用意致します。発表者は発表の30分前までに何れを使用するか申し出てください。スライドはホルダーにセットし，試写してご確認ください。

2) 討論

討論の希望者は，座長の指示に従い，所属と氏名を述べてからご発言下さい。本研究会においては学会などではできないような問題についてもフランクに討論して下さい。

3) 座長へのお願い

運営の都合上，当該時間の30分前までに会場へ到着し，受付に出席している旨をお知らせ下さい。発表演題についての質問が少ないときは，その周辺の問題に関連した話題などを引き出してください。ただし，指定時間は厳守して下さい。

編集委員会より

本年11月1, 2両日に渡り大妻女子大学・池上幸江教授を集会長に第7回学術集会在開催されます。今年は演題申し込み数が多く一般演題も充実しております。また、新しい試みとして「多糖類の物性と構造」に関するシンポジウムが企画されています。食物繊維研究を新しい切り口で見直す機会になればと思います。巻頭の桐山先生の提言にもありましたように会員の皆様はもとより学生の方々も是非ご参加・入会いただきますよう先生方のご協力をお願いいたします。

ホームページの運営もこれから充実させていきますので是非一度アクセスしてみてください。
(青江)

会員状況：平成14年9月30日現在

| | | | | | |
|------|------|------|----|------|-----|
| 正会員 | 214名 | 学生会員 | 7名 | 賛助会員 | 44社 |
| 団体会員 | 4団体 | 名誉会員 | 9名 | | |

【賛助会員】

| | | |
|----------------|-----------------------------|--------------------|
| 参松工業株式会社 | 太陽化学株式会社 | 株式会社荻野商店 |
| 全国精麦工業協同組合連合会 | 大日本製菓株式会社 | 日本食品化工株式会社 |
| 佐合食品工業株式会社 | ダニスコジャパン株式会社 | 大塚製菓株式会社 |
| 三和酒類株式会社 | 雪印乳業株式会社 | 伊那食品工業株式会社 |
| 財団法人日本こんにゃく協会 | 株式会社はくばく | 日本ケロッグ株式会社 |
| 株式会社林原生物化学研究所 | 社団法人菓子総合技術センター | 松谷化学工業株式会社 |
| サントリー株式会社 | オリヒロ株式会社 | 株式会社カイゲン |
| 富士バイオ株式会社 | 日清ファルマ株式会社 | 日本甜菜製糖株式会社 |
| 武田キリン食品株式会社 | 日本バイオコン株式会社 | 旭化成株式会社 |
| 株式会社横浜国際バイオ研究所 | 第一出版株式会社 | 清水化学株式会社 |
| 日清食品株式会社 | 三和澱粉工業株式会社 | 昭和産業株式会社 |
| 株式会社日健総本社 | 朝日食品工業株式会社 | フィプロ製菓株式会社 |
| 明治製菓株式会社 | ア-ラフ-ズ インク・レテ イエンツ ジャパン株式会社 | コロト ナチュレル ジャパン株式会社 |
| 大和薬品株式会社 | 株式会社東洋新薬 | 日本エヌエスシー株式会社 |
| 株式会社バイオテックジャパン | ロケットジャパン株式会社 | (順不同) |

日本食物繊維研究会 JDF News Letter No.14

発行日 : 2002年10月8日

発行人 : 日本食物繊維研究会会長 池田義雄

編集人 : 奥 恒行、青江誠一郎

事務局 : 日本食物繊維研究会事務局

〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1

独立行政法人 国立健康・栄養研究所 食品表示分析・規格研究部気付

TEL : 03-3203-5602, FAX:03-3205-6549

印刷所 : 株式会社 交友社

〒136-0072 東京都江東区大島8-38-5

